

6

サステナビリティ



PMJのサステナビリティ

責任あるマーケティング・販売活動

共に働く人々への配慮

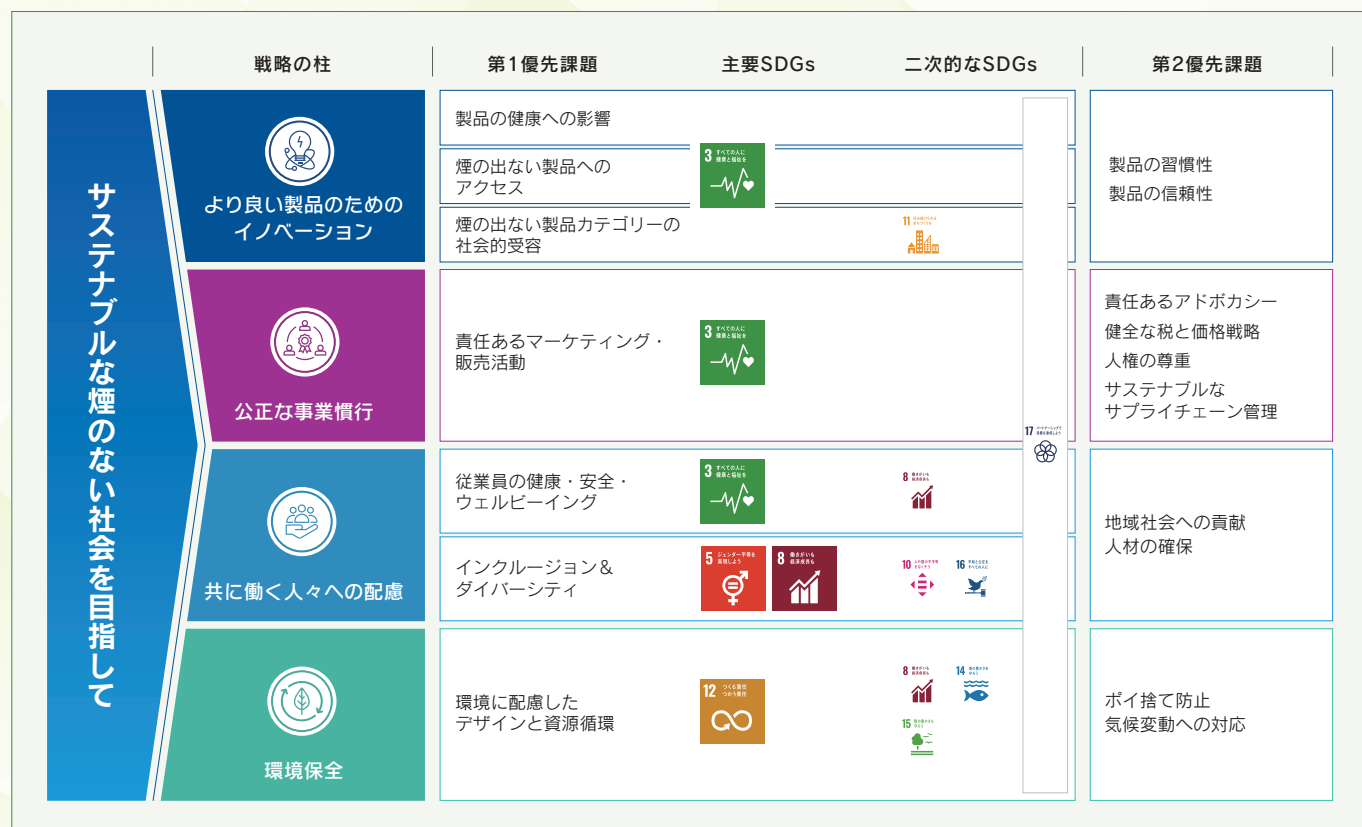
環境保全



PMJでは、2018年から2019年にかけて、PMIが策定しているサステナビリティ戦略をもとに、日本独自のサステナビリティ戦略を策定しました。PMIが定めている4つのサステナビリティ戦略の柱に沿って、PMJの優先課題を下図の通り特定しています。優先課題は、日本政府の「SDGs(持続可能な開発目標)実施指針」を勘案しつつ、PMIのバリューチェーンにおける日本市場の特性や、国内の有識者と従業員から当社に対する期待や課題のヒアリングをした結果を踏まえています。

PMIは2019年に、第1優先課題への取組みを通して最も大きなインパクトを示せる分野を特定しました。当社は事業変革を通して、SDG 3（「すべての人に健康と福祉を」）に大きな、そしてポジティブな影響を与えていくことができると考え、関連するその他のゴールとターゲットにも貢献していくことを目指します。以下の図は、PMIのサステナビリティに関するSDGsとの整合性の整理に基づき、PMJのサステナビリティにおける第1優先課題に関連するSDGsをマッピングしたものです。

※ バリューチェーン：事業活動を機能ごと、例えば、原材料の調達、製造、物流、販売、使用時などに分類したもの





当社は20歳以上の喫煙者のみを対象としたマーケティング・販売活動を、責任ある形で実施します。責任あるマーケティング・販売活動において、当社では5つの基本原則を指針としています。

- 当社の製品は、20歳以上の喫煙者のみを対象としています
- 私たちは消費者に対し、PMI製品の健康への影響に関して警告します
- 私たちは、20歳以上の喫煙者が選択できるように、PMI製品に関するコミュニケーションを行います
- 私たちは誠実に透明性をもって販売します
- 私たちは、煙のない社会というビジョンに沿ったかたちで、燃烧式たばこ製品を開発・設計・展開します

私たちは当社製品すべてについてその健康への影響を20歳以上の喫煙者に警告しています。煙の出ない製品は、多くの人にとってまだまだ馴染みが薄い新しい製品です。今後も喫煙を続ける意思を持つ20歳以上の喫煙者に対して、喫煙を続けるよりも良い代替製品があることを伝えること、そして20歳以上の喫煙者がこうした代替製品に完全に切替えるように促すことは当社事業の優先課題であり、20歳以上の喫煙者に十分なコミュニケーションを行う必要があります。同時に、20歳未満の方々や非喫煙者による当社製品へのアクセスを防ぎ、喫煙開始や使用を最小限に抑える取組みが不可欠で、このバランスを取りながら事業活動を行っています。

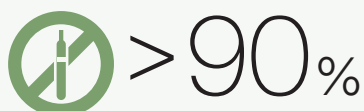
煙の出ない製品もリスクがないわけではありません。加熱式たばこ専用たばこスティックのパッケージには、製品のリスクやニコチンを含有していること、そして習慣性について、健康警告文を記載しています。

また、当社には「煙の出ない製品への切替えのための基本ポリシー（GCP: Good Conversion Practice）」があり、煙の出ない製品が喫煙を継続する意思を持つ20歳以上の喫煙者向けの製品であること、禁煙の代替手段ではないこと、20歳未満の方々や妊娠中の女性、糖尿病患者や心臓疾患のある方はたばこもニコチン含有製品も一切使用すべきではないことなどがその内容に含まれています。このポリシーは、IQOS 専門店ではお客さまの目につく場所に掲示されており、第三者が運営するたばこ販売店で掲示も推奨しています。

2021年に当社のマーケティングコードが新しくなりました。紙巻たばこに関するこれまでの内容が刷新されただけでなく、煙の出ない製品のマーケティングと販売に関する内容や、20歳未満の方々による当社製品へのアクセス防止に関する内容、そしてデジタルコミュニケーションに関する内容がそれぞれ独立したコードとしてあらためて明文化され、これまで以上に包括的なマーケティングコードになりました。

●関連する数字●

PMI の目標

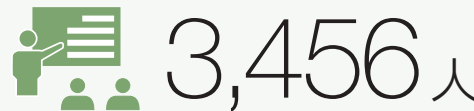


当社製品出荷量の90%以上に相当する市場で、2020年までの20歳未満アクセス防止プログラムの実施割合



2023年までに年齢認証技術を導入する、煙の出ない製品用電子デバイスの割合

PMJ 2020 年のハイライト



当社の煙の出ない製品への切替えのための基本ポリシー(GCP: Good Conversion Practice)のトレーニングを受講した従業員^{※1}および第三者^{※2}の数

※1 販売促進を中心的な業務内容とする部署に所属する従業員が対象

※2 IQOS 専門店や加熱式たばこ専用室を備えた飲食店において加熱式たばこの販売促進活動に携わるスタッフ、コールセンターのスタッフが対象



■ 従業員の健康・安全・ウェルビーイング

従業員のウェルビーイングの向上を目指して、現場営業に従事する従業員に適用される完全フレックスタイム制度や、本社に勤務する従業員に適用されるハーフデーフライデー（週4.5日勤務の推奨）、有給休暇とは別に私病や家庭の事由で取得できるファミリー休暇など、ワークライフバランスの充実をサポートする制度を導入しています。

2020年末に、PMJは「スモークフリーカルチャー認定」と「トップ・エンployヤー認定」を授与されました。スモークフリーカルチャー認定は当社産業医の協力を得て制作した禁煙を促すビデオを含む、禁煙に関する情報提供、喫煙を続ける意思を持つ従業員に限定した当社加熱式たばこ製品の社員割引、オフィスの紙巻たばこ用喫煙所の撤去などが評価されて取得に至りました。トップ・エンployヤー認定は、PMJとして2年連続で取得しています。この認定は人事制度の改善の継続、そして多様な人材の個性を生かし、よりインクルーシブでダイナミックな働きやすい職場環境の整備に努めていることを評価しています。

● 関連する数字 ●

PMI の目標

 < 0.3 %

2025年までの達成を目指す、従業員と請負業者の労働災害度数率

PMJ 2020 年のハイライト

 0 %

従業員と請負業者の労働災害度数率

■ ダイバーシティ&インクルージョン

当社では多様性を受け入れ、尊重する文化を大切にしています。多様性を育むことができる組織は、20歳以上の喫煙者の声を反映しやすく、変化の速い複雑な社会への対応力を養うことにもつながります。多様な才能を認め合うインクルーシブな文化は、当社の変革に不可欠だけでなく、私たちの強みです。

当社では、性別による待遇の差をなくすための積極的な取り組みを行っています。PMJは、2016年から2020年まで5年間連続で、性別に関係なく同一の労働に対して同一の賃金を払っている企業として、NPO法人「EQUAL-SALARY Foundation」から認証を受けています。

2020年に、PMIは新しい育児休暇制度を発表しました。この新しい制度は、「子育てをする女性」という性別の固定観念を取り払い、子どものいる家族を持つすべての親を対象としています。育児におけるプライマリーケアギバー※1に対して最低18週間、セカンダリーケアギバー※2に対して最低8週間の育児休暇が付与されることになり、プライマリーケアギバーとセカンダリーケアギバーは、性別、性的志向、子どもとの血縁関係の有無を問いません。新しい育児休暇制度は、多様性を尊重するインクルーシブな企業文化をさらに前進させる取り組みの一環として、今後日本を含むPMIのすべての市場で段階的に導入される予定です。

● 関連する数字 ●

PMI の目標

 > 40 %

2022年までの達成を目指す、女性管理職※3の割合

PMJ 2020 年のハイライト

 27.1 %

女性管理職※3の割合

※1 プライマリーケアギバー：子どもに対して親の責任がある主育児者

※2 セカンダリーケアギバー：子どもに対して親の責任があるが主育児者ではない人

※3 管理職とは社内規定における一定グレード以上の従業員を指し、部下を持たない場合もあります



当社は、「作って使って捨てる」経済モデルから、資源をより循環させる社会に移行する必要を理解しています。製品デザインにサステナビリティの考え方を取り入れることによって、ライフサイクル全体を通して環境・社会への負荷低減を目指しています。PMIの考え方とPMJの市場特性に基づき、PMJでは特にIQOSデバイスの回収とリサイクルを第1優先課題にしています。

PMIは2018年、日本と欧州の2か所にCIRCLE (Central Inspection and Recycling for a Closed Loop Economy) プロジェクト拠点を設置し、使用済みのデバイスの資源化について統合的なアプローチを採用しており、PMJは現在、このプロジェクトに参加しています。日本では現在、保証期間中に返品されたデバイスをCIRCLEプロジェクトの一環として回収し再資源化しています。現在、使用済みデバイスを含むより多くの製品を効率的に回収する仕組みを検討しています。

さらに、製品をできるだけ長くご使用いただけるよう、製品の適切な取り扱いに関する情報提供や、トラブルへの対応など、不要なデバイスの交換を減らすための取組みも行っています。

■ ポイ捨て防止

当社は、吸い殻のポイ捨てを防ぎ、適切な廃棄物処理を実現するために、啓発、クリーンアップキャンペーン、パートナーシップを通して20歳以上の喫煙者の行動変容を促す取組みを推進しています。私たちは、2025年までに自社製品から生じるプラスチック由来のごみのポイ捨てを半減させることを目指しています。PMJもこの目標の達成に貢献すべく、2018年から4年連続で世界最大規模のポイ捨て防止を目指す運動「WORLD CLEANUP DAY」を支援しています。2021年の10月は、このイベントへの参加の一環として、従業員が個人の空き時間にできるごみ拾いを推進する月間としました。

● 関連する数字 ●

PMI の目標

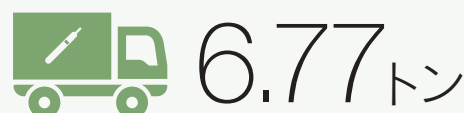


2025年までの達成を目指す、煙の出ない製品デバイスと消耗品の回収と修理へのアクセスがあるユーザーの割合



2025年までの達成を目指す、エコデザイン認証を受けた煙の出ない製品デバイスの割合

PMJ 2020 年のハイライト



2020年に日本市場でCIRCLE拠点に集められたデバイスの総重量



CIRCLEプロジェクト拠点（日本と欧州の2拠点）でのIQOSデバイスのリサイクル率(加重平均)^{※1}が74% (2019年)から84% (2020年)に増加

※1 リサイクル率：デバイスの種類と処理施設によって異なります。数字は2つのCIRCLEプロジェクト拠点で処理されたデバイスに関する値で、異なる製品種類が含まれます。埋め立て廃棄分はゼロで、残りはエネルギー回収とマテリアルロスです